

プロモーション戦略として寄せられたご意見

2025年9月19日

経済産業省 商務情報政策局 情報技術利用促進課

独立行政法人 情報処理推進機構（IPA）

本資料の説明

本資料は、委員の皆様よりご提案いただきましたプロモーションに関するアイデアを取りまとめたものです。

目次

テーマ毎のサマリ

1. 認知度向上
2. 人材育成
3. その他ご意見

1. 認知度向上（1/4）

【 デザイン非関心層向け 】

カテゴリ	内容	備考
媒体・チャネルを利用するご提案	ビジネス関連の出版物やメディア、経済ニュース番組、オンラインニュースサービスなどを利用	ビジネス層
	マンガやビジュアル教材, ポッドキャスト発信, 動画等を活用した情報共有コンテンツの制作など	

1. 認知度向上（2/4）

【 デザインマネジメント実践人材（関心層含む）向け 】

カテゴリ	内容	備考
媒体・チャネルを利用するご提案	コミュニティーサービスを利用, 技術カンファレンス発表	エンジニア層
イベント	• HCS共創機構※ 1、HCD-Net※ 2 等関係団体と連携イベント開催等 関係団体と連携イベント開催 • イベントやwebの記事での事例紹介	
	デザイン関連イベント、表彰制度、団体と連携し、セッションの実施、ブース等の出展	
	• 先行企業やDX認定企業のCDOが登壇するシンポジウムや公開ラウンド テーブルの開催 • 「CDO Voices」キャンペーン（デザイン重視の従来には無いようなおしゃれなショート動画・記事・SNS）を展開	
	• 独自フォーラム「Design Management Summit」 • カンファレンスでセッションを持ったり, ブースを出す • メディアと連動した独自イベント, ハッカソン型啓発イベントなど	
	定期的にオンライン説明会を実施	

※ 1 事務局である一般社団法人 人間中心社会共創機構の略称

※ 2 特定非営利活動法人人間中心設計推進機構の略称

1. 認知度向上（3/4）

【 事業会社・経営層向け 】

カテゴリ	内容	備考
媒体・チャネルを利用するご提案	オンラインのコンテンツ, 新聞や雑誌への寄稿（デザインマネジメント人材の雇用拡大に向けた事例等の紹介）	
	政策研修カリキュラム化	
	ミラサポplusの利用	中小企業
イベント	アワード制度（優良事例表彰）	
その他	DX認定基準に「デザイン人材活用・CDOの設置」を推奨要件として盛り込む	
	ガバナンスコード開示との連動 統合報告書に「デザイン人材の活用方針・比率・成果指標」を開示推奨。	
	助成金その他の優遇措置	
	調達案件において、入札条件として、デザインマネジメント試験合格者が一定人数参加することを求める	

1. 認知度向上（4/4）

【 その他 】

Target	内容	備考
経営層, CDO , DX推進者, デザインマネジメント人材（関心層 含む）	実践者コミュニティを立ち上げ、デザイナーの役割共通認識とキャリア意識を醸成	
教材開発者	定期的にオンライン説明会を実施	
－	試験運用が開始された初年度に本タスクフォースの事務局および委員全員が 受験をし、合格を目指す	自ら率先して本資格を受 験する姿を見せる

2. 人材育成（1/2）

【デザインマネジメント実践人材（関心層含む）向け】

カテゴリ	内容	備考
研修・セミナー	- 企業内の業務改革分野のDXを題材に、一連のプロセスを体験する演習形式のセミナー - セミナー後、学んだ手法を用いて個人課題	
	手引書の制作（各種イベントで配布、METI／IPAサイトで公開）	
	YouTube動画（デザインマネジメントとは何か、試験受験用学習動画）	
大学・教育事業に向けたご提案	- デザインマネジメント概念を明示的に教育に取り入れる - MBAやデザイン系大学院と共同で「デザイン経営DXコース」を設置	学生、リスキル対象者
教材	モデル教材制作（DSS準拠×国際標準対応）	
	AIエージェント活用のショート動画, デザイン思考, サービスデザイン, AI×デザインOpsなどを教材化	
インタビュー公開	初回試験合格者へのインタビュー	
	経営者へのインタビュー（デザインマネジメント人材への期待などを語っていただく）	

2. 人材育成（2/2）

【その他】

カテゴリ	Target	内容	備考
研修・セミナー	自社職員	民間によるオンライン研修カリキュラムを用いて、広い社員を対象とした教育/研修を行う	
	企業DX担当者	企業DX担当・管理職に研修提供	
大学・教育事業に向けたご提案	大学, 教育関連	- ケーススタディ教材、研修コンテンツ制作 - デザインマネジメント研究の推進（経済産業省が支援）	
	研修事業者, 教材制作事業者	説明会を定期的に実施	

3. その他頂いたご意見(1/2)

- デザインに元々関心がある層と、デザインに距離を感じている層では、それぞれに対するアプローチは大きく異なるデザインに距離を感じている層にしっかりフォーカスを当てたい。
- 主に大学生に対しては、ITパスポートだけでは普通過ぎて不十分という認識のもと、実務のプロジェクト推進に有効な、併せて取得すべき試験として、デザインマネジメントをプロモートできないか。
- デザインマネジメントの議論でもありますし、多少なりとも、HCDやサービスデザインのアプローチを援用して、オーディエンスの類型化やターゲット(複数)想定認識合わせを行った方が良いのではないかな。
- 資格試験とは異なってくるが、参考となるデザイン手法の整理や、DXにおける応用方法の形式知化には力を入れるべき。個人的に企業に対して伴走支援を提供しており、経験を持っている。ご協力できることを楽しみにしている。
- 経産省／IPAは、企業のデザインマネジメント実践を支援するデザインコンサルティング会社、制作会社、リサーチ会社などへの需要が高まるよう、企業に対して、デザインマネジメント実践の段階的ロードマップや発展イメージを啓発してもらいたい。
求職者、企業内実践者（ビジネスパーソン）、人事担当者、経営者、外部のデザイン専門家といったエコシステム全体の機運が高まることが望ましい。
- 試験合格者が名刺等に掲載できるロゴ等を作ってはどうか。
- 本試験に受験いただくペルソナを作成してはどうか。（現在の議論で見えているよりもおそらく広い人、想像していなかったような属性の人に対象になってくると思う。）

3. その他頂いたご意見(2/2)

- 評価・指標
 - 新指標の提案：体験価値、顧客共創度、社会的インパクト
 - デザインマネジメント成熟度モデル策定
- 共通言語化
 - 「デザインマネジメント用語集」作成・公開
- 国際発信
 - 国際的なカンファレンスや機関誌等での発信
 - 国際的なフォーラムで「日本のデザイン政策」として発表
 - アジア近隣国（韓国、シンガポール、台湾）との比較調査を発信し、日本の特徴を明確化
- 制度・政策
 - 補助金・助成金でデザインマネジメント導入企業を優遇？
 - 規制緩和実証フィールドで社会課題テーマの実践プロジェクト実施？